

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
地理歴史	地理総合	2	必修	R6・1	全HR
使用教科書	「地理総合」(東京書籍) 「新詳高等地図」(帝国書院)				
副教材	「地理総合ワークノート」(東京書籍)				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組みを理解するとともに、地図やGISを用いて様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間との相互依存関係、空間的相互依存作用などに着目して、概念などを活用して多面的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、それらを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる事象についてよりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚を深める。

2. 学習方法

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組みを理解しているとともに、地図やGISを用いて様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間との相互依存関係、空間的相互依存作用などに着目して、概念などを活用して多面的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4 月	緯度・経度 地球儀と世界地図 日本の位置と領域	- 緯度や経度、日本の位置と領域、日本が抱える領土問題についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 - 目的に応じて地図の種類を選択している。 - 緯度や経度、日本の位置と領域、日本が抱える領土問題について、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	緯度や経度の違いが私たちの生活に与える影響について、緯度や経度の特徴をふまえて、世界地図や地球儀の利用法について、世界地図や地球儀の特徴をふまえて、国家と領域、日本の領土問題について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	緯度や経度と私たちの生活との関係、世界地図と地球儀の特徴、日本の位置と領域に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。
	5 月	地図や地理情報システムの役割	現代世界の様々な地理情報について、地図やGISなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。	- さまざまな地図について、縮尺・媒体・用途などに着目し、適切に整理している。 - さまざまな統計数値を収集し、有用な情報を選択して、適切な主題図で表現している。	- 地図に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追及し、捉えようとしている。 - 主題図の読み取りと作成に対する関心を高め、意欲的に取り組もうとしている。 - GISを実際に使用し、しくみやGISでできることをとらえようとしている。
	6 月	生活文化の多様性と地域性	- 現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図を基に、国内や国家間の結びつき、交通・通信技術や貿易構造の変化、世界の国家群の特徴、国境をこえて移動する人々やその目的、各国の貿易の特徴や産業構造の変化について、基本的な事柄と理解し、その知識を身に付けている。 - 国内や国家間のむすび付きについて地図や画像などの諸資料を収集	交通・情報通信が国境をこえて結びつき、その結びつきがますます強固になっていること、国境を越えたモノや人の動き、グローバル化の加速によって形成された地域経済圏や国家群について、地域性や日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	交通・通信の発達による社会の変化と、それとともに起こるようになった諸問題、政治的・経済的な国家間の結び付きが強まっていること、さまざまな交通手段の長所や短所、人々が国境をこえた移動をする背景やそれにとみなう問題点、各国の貿易構造に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追及し、とらえようとしている。

1 学期			し、有用な情報を選択して、読みとったり図表にまとめたりしている。		
	7 月	生活文化と自然環境 地形	・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたリ、影響を与えたりして多様性を持つことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて、基本的な事柄と追及の方法を理解し、その知識を身に付けており、地域的な傾向を諸資料の収集と読解を通じて理解している。	・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して主題を設定し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・多様な文化が均一化の傾向にあること、現代では文化が変容しているものがあること、現代では文化が変容しているものがあること、宗教の持つ役割やほかの宗教への理解や尊重の必要性、山地における伝統的な資源の利用と分化の形成、および現代社会における重要性、平地の地形において近年における利用の変化や重要性、自然的な海岸の変化や人為的な海岸の改変、気温や降水量の違いが与える地域への影響や、生活様式や産業にもたらす変化、技術の発展やグローバル化などによってどのように産業が発展・変容してきたかについて、関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追及し、とらえようとしている。
2 学期		気候			
	9 月 10 月	産業	・地形の特徴やそれらの土地利用について、写真や図表の読み取りなどを通じて、気候の特徴について雨温図や写真などの読み取りなどを通じて、産業について写真やグラフ・地図の読み取りを通じて基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。		

2 学 期	11 月	地球環境問題 資源・エネルギー問題 人口問題	・ 大気や海洋に関わる環境問題、森林減少や砂漠化についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・ 地球温暖化や海洋のプラスチックによる汚染、森林減少や砂漠化の状況やメカニズムについて地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり、図表にまとめたりしている。 ・ 深刻さを増す世界の資源・エネルギー問題、世界中で需要が高まっているエネルギー資源についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・ 化石燃料や再生可能エネルギー、消費の急増や枯渇の危機、南北格差など、さまざまな問題を抱える世界の資源エネルギーについて、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 ・ さまざまな要因がからむ世界の人口問題について基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・ 先進国の進行問題について、少子高齢化の要因や影響などに着目して、世界の人口変化や分布、増減の特徴について、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	・ 地球環境問題、森林減少や砂漠化について地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・ 資源・エネルギーをめぐるさまざまな問題、エネルギー資源の分布や環境への影響について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・ 各国の社会状況にあった具体的な解決が求められる世界の人口問題、おもに先進国で進む少子高齢化について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・ さまざまな要因がからむ地球環境問題、世界のさまざまな地域で起きている森林減少や砂漠化に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追及し、とらえようとしている。 ・ 枯渇の危機に直面している世界の資源・エネルギー問題、エネルギー資源の生産および消費に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追及し、捉えようとしている。 ・ 地球規模での解決がせまられる世界の人口問題、解決のせまられる先進国の人口問題に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追及し、とらえようとしている。
-------------	---------	---	---	--	--

2 学 期	12 月	食料問題 居住・都市問題 民族問題 地球的課題と国際 協力	・地域的な要因のからむ世界の食料問題、発展途上国の都市問題、都市内部の地域で異なる先進国の居住・都市問題、民族問題・難民問題、地球規模で起きている課題とそれに対する国際協力について、 基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・食料供給、食料増産、食料流通の地域差、さまざまな側面から見た世界の食料問題、都市の機能と都市化、都市問題の発生、民族問題・難民問題、地球規模で起きている課題について、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり、図表にまとめたりしている。	・需給のアンバランスな世界の食料問題、発展途上国の都市問題、民族問題・難民問題、地球規模で起きている課題とさまざまな形で行われている国際協力について地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて先進国の居住・都市問題について都市の内部構造を踏まえて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・世界の食料問題、居住・都市問題、民族問題・難民問題、国際協力に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追及し、とらえようとしている。
3 学 期	1 月 2 月	日本の自然環境の 特色 さまざまな自然災害と防災 気象災害 都市と自然災害 防災・減災と復興 旧・復興	・我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害、地域の自然で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害のメカニズムや規模、頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 ・世界的な視点からみた日本列島の地形、気候の特徴、自然災害・気象災害のメカニズム、自助・共助・公助の観点から防災・減災へ向けた取組みとその課題について、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、図表にまとめたりしている。	・自然災害・気象災害のメカニズム、地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及しようとしている。

3 学 期	3 月	生活圏の調査と地域の展望	- 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探求する手順や注意すべきことなどについて理解している。 - 身近な地域の特徴を理解するため、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取りたり図表にまとめたりしている。	身近な地域の特徴をとらえるために、生活圏内や生活圏外との結びつき、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を意欲的に追及、解決しようとしている。
-------------	--------	--------------	--	--	--

5. 教科担当者より

地理的な見方や考え方を身に付けることによって、地球的課題から身近な地域の課題まで、さまざまなスケールの課題を理解し、解決の道筋を考えていくことができますようになります。また、地理の学習を通して自然現象への理解を深めたり、ハザードマップを活用する技能を磨いたりすることは、災害から身を守ることにもつながります。

地理総合の学習を通じて、皆さんが現代社会を生きていくうえでの確かな羅針盤を手に入れましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
地理歴史	歴史総合	2	必修	R6・1	全HR
使用教科書	「明解 歴史総合」(帝国書院)				
副教材	「明解 歴史総合ノート」(帝国書院) 「明解 歴史総合図説シンフォニア」(帝国書院)				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論する力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2. 学習方法

1 統計・写真などの資料を読み取り、当時の状況を多面的視点から考察する。 2 サブノートなどの設問に答えていく中で、知識や理解を定着させる。 3 定期試験などを通じて理解を深めていき、次年度の「探究」へ興味・関心をつなげる。 4 課題・サブノート等の提出を確実にやる。

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4 月	1 アジアの中の江戸幕府 2 成熟する江戸社会 3 清の繁栄と結びつく東アジア 4 アジア・アメリカに向かうヨーロッパ	・16～17世紀にアジア諸国の交易が盛んになった様子を概観し、そのなかで日本が「四つの窓口」による限定的な交易を行ったことを理解している。 ・江戸時代の日本について、農業が発展し、交通網が整備されたこと、平和で安定した社会のなかで教育が普及し、学問の発達が見られたことを理解している。 ・18世紀における清を中心としたアジアの国際秩序やヨーロッパ諸国との交易について理解している。 ・イスラーム帝国の繁栄とヨーロッパ諸国のアジア、アメリカへの進出について理解している。	・江戸幕府が貿易を統制した目的について考察し、表現している。 ・江戸時代の社会について、幕末以降の日本の近代化との関連を考察し、表現している。 ・銀の動きに着目し、清と近隣諸国、ヨーロッパ諸国との交易の特徴について考察し、表現している。 ・大西洋三角貿易がアフリカとアメリカに残した課題について考察し、表現している。	18世紀の世界交易が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
	5 月	1 イギリスの革命とアメリカの独立 2 フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け 3 フランス革命の影響と国民意識の芽生え 4 産業革命で変わる社会 5 イギリスの繁栄と国際分業体制	・イギリスの革命とアメリカの独立によって成立した、それぞれの政治体制について、啓蒙思想に着目して理解している。 ・フランス革命の理念を人権思想に着目して理解している。 ・ナポレオンによってフランス革命の成果がどのように定着し、その失脚後にはどのような国際的枠組みが作られたのか理解している。 ・産業革命の進行と、その結果確立した資本主義による社会の変化について理解している。 ・「世界の工場」とよばれたイギリスの繁栄について、内政・外交の両面から理解している。	・イギリスとアメリカで成立した政治体制とその違いについて考察し、表現している。 ・フランスの政治体制や社会が革命によってどのように変化したのか考察し、根拠に基づいて表現している。 ・ナポレオンの果たした役割を近代化の進展という観点から考察し、表現している。 ・産業革命による社会の変化に着目し、現代につながるどのような問題が生じたかを考察し、表現している。 ・資本主義の展開や国際分業体制の形成によって、世界各地でどのような変化が現れたかについて考察し、表現している。	
	6 月	1 1848年～近代ヨーロッパの転換点 2 イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化	・国民国家の形成について、ナショナリズムの運動に着目して理解している。 ・イタリア・ドイツの統一とロシアの改革を推進した人物に着目して、これらの国々の近代化について理解している。	・1848年を転換点とするヨーロッパにおける近代化の経緯と特徴について考察し、表現している。 ・ドイツとロシアの近代国家形成の特徴について、考察し、表現している。	・国民国家や帝国主義政策が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。

6 月	3 アメリカの拡大と第2次産業革命 4 帝国主義と世界の一体化 1. 「西洋の衝撃」と西アジアの変化 2 南・東南アジアの植民地化	・アメリカ合衆国の領土拡大と南北戦争について、国内の一体化と経済発展に着目して理解している。 ・19世紀末の世界の一体化について、帝国主義政策による列強諸国の植民地獲得競争に着目して理解している。 ・ヨーロッパの進出に対し、オスマン帝国、エジプト、イランの3か国がそれぞれどのような対応をとったのか理解している。 ・ヨーロッパ諸国の進出によって、南・東南アジア諸国が採ったさまざまな反応を、行動主体に着目して理解している。	・アメリカが工業大国になった原因について、科学技術や経済に着目して考察し、表現している。 ・帝国主義政策や移民による大規模な人口移動が、アジアとアフリカに何をもたらしたのかについて考察し、表現している。 ・オスマン主義とパン＝イスラーム主義の違いとそれらが生まれた背景について考察し、表現している。 ・植民地になった地域の社会がどのように変化したか考察し、表現している。	・欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
7 月	3 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 4 黒船の来航と日本の対応 5 新体制の模索と江戸幕府の滅亡 1 新政府の誕生 2 近代国家を目指す日本 3 日本と清の近代化と日清戦争 4 列強の中国進出と日露戦争	・ヨーロッパの進出に対する日本と清の対応と結果を、行動主体に着目して理解している。 ・欧米諸国に対して日本側が採った対応を、行動の主体（幕府と各藩）に着目して理解している。 ・欧米諸国の進出によって生じた、明治維新へ向けた日本の政治の変化を、行動主体とねらいに着目して理解している。 ・日本が、明治維新の諸改革によって急速に近代化を進めたことについて理解している。 ・大日本帝国憲法制定と外交に基づく領土の画定について、背景と過程を理解している。 ・日本・清・朝鮮、それぞれの近代化政策と日清戦争の経緯について理解している。 ・日清戦争後の清と日本の改革を比較し、その対応や状況の違いを理解している。	・アヘン戦争とアロー戦争によって、清とヨーロッパ諸国の貿易や外交関係がどのように変化したか考察し、表現している。 ・清と日本の欧米諸国への対応における相違点を挙げ、その理由について考察し、表現している。 ・旧幕府軍と新政府軍の考え方の違いと近代化との関連について考察し、表現している。 ・明治維新の前後で国のしくみと身分制がどのように変化したか考察し、表現している。 ・近代国家となった日本の政治に国民がどの程度参加できたか考察し、表現している。 ・日清戦争の結果、東アジアの関係がどのように変化したか考察し、表現している。 ・日露戦争に伴う日本と欧米諸国の関係の変化について、その要因を考察し、表現している。	・明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。

2 学期	9 月	5 日露戦争が与えた影響 1 ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 2 総力戦となった第一次世界大戦 3 ロシア革命と大戦の終結 1 ヴェルサイユ体制の成立	・日露戦争と日本の対外進出が、アジア各地の人々にどのような影響を与えたかについて理解している。 ・ドイツとロシアの対外政策の変更によって、バルカン半島で国際的な利害が対立していったことを理解している。 ・第一次世界大戦が総力戦化した構造を理解している。 ・ロシアで革命が発生した背景や経緯を理解している。 ・第一次世界大戦後、国際連盟が形成された経緯について理解している。	・辛亥革命が起こった原因を、政治体制に関する対立や日露戦争の影響を踏まえて考察し、表現している。 ・ドイツの政策がヨーロッパ諸国の対立や同盟に与えた影響について考察し、表現している。 ・第一次世界大戦の特徴と戦争の被害が拡大した要因について考察し、表現している。 ・ロシア革命の影響で「終わったもの」と「始まったもの」について考察し、表現している。 ・ヴェルサイユ体制と国際連盟の課題について考察し、表現している。	・勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
	10 月	2 東アジアの民族自決の行方 3 中東・インドの民族自決の影響 4 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 5 大衆社会の出現とアメリカの繁栄 6 日本における大衆社会の形成 1 世界恐慌が与えた影響 2 ファシズムの台頭と拡大	・朝鮮と中国における民族運動の高まりと、列強によるワシントン体制の成立について理解している。 ・大戦後のヨーロッパで、平和を模索する国際秩序が構築されたことと大衆による政治参加が進んだことについて理解している。 ・大衆社会の成立と大衆文化の特徴について理解している。 ・日本における大衆の政治参加と大衆社会の形成について理解している。 ・世界恐慌への各国の対応が世界情勢に与えた影響と、ソ連のスターリン独裁の功罪について理解している。 ・ドイツ・イタリアのファシズム勢力が大衆をひき付けた理由と経緯について理解している。	・中国の人々にとって、ワシントン体制がどのようなものであったかを考察し、表現している。 ・中東とインドにおける国民国家形成における課題について考察し、表現している。 ・大戦後、各国で大衆の政治参加が進んだ理由について考察し、表現している。 ・大量生産・大量消費やマスメディアの発達に伴う問題について考察し、表現している。 ・ブロック経済のねらいと、その国際的な影響と問題点について考察し、表現している。 ・ファシズム勢力に、大衆が同調したり、見過ごしたりした理由と課題について考察し、表現している。	・世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
	11 月	3 政党政治の断絶と満洲事変 4 日中戦争の始まり 5 第二次世界大戦の展開 6 戦局の悪化と被害の拡大 7 第二次世界大戦の終結とその惨禍 1 戦後の新たな国際秩序 2 冷戦の始まり	・満洲事変という事態を日本の大衆が支持するに至る経緯を、背景となった恐慌の苦難という観点から理解している。 ・大衆の支持を背景に台頭した軍部が、政治的発言力を強めて軍備を増強し大陸侵略を目指すに至った経緯を理解している。 ・ヨーロッパから、アジア・太平洋にも及ぶ戦争に発展する経緯について	・日本の大衆や政府が、軍部による満洲進出を止められなかった理由について考察し、表現している。 ・日本がイギリス・アメリカとの協調をやめ、ドイツ・イタリアに接近した背景について考察し、表現している。 ・日本が、中国だけでなくアメリカと戦争を始めた理由について考察し、表現している。 ・日本が総力戦遂行のため	・大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、

			て、理解している。 ・日本は侵略を正当化しつつ、アジア・太平洋に戦線を拡大したこと、ドイツ・イタリアが無条件降伏したことを理解している。 ・日本がポツダム宣言を受諾するに至る経緯や被害の甚大さ、終戦後の日本とアジア諸国の関係にある深い傷あとについて理解している。 ・日本とドイツに対する連合国の戦後処理の目的と結果、および国際連合を中心とした国際平和協力について理解している。 ・米ソ対立と東西冷戦という戦後の理想から現実への転換と、対立を克服しようとするヨーロッパの統合の試みについて理解している。	に国内外で行ったことについて、当時と現在の視点で考察し、表現している。 ・なぜ第二次世界大戦では多くの犠牲者が出るようになったのか考察し、表現している。 ・国際連合について、国際平和の維持に対しての達成点と課題を、国際連盟との相違も踏まえて考察し、表現している。 ・冷戦がヨーロッパ諸国に及ぼした影響について考察し、表現している。	現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
	12月	3 日本撤退後の東アジア 4 日本の改革と独立の回復	・アジア諸国の独立運動が冷戦構造に組み込まれていく経緯について理解している。 ・日本の民主化と、東西冷戦が日本に与えた影響について理解している。	・独立を達成した国が、なぜ東西勢力にくみしていくのかについて考察し、表現している。 ・日本が独立回復の際に、全面講和ではなく多数講和を選択した理由について考察し、表現している。	
3学期	1月	1 アメリカ・ソ連の緊張と緩和 2 冷戦下における日本の復興 3 第三勢力の形成と脱植民地化 4 中東戦争とパレスチナ問題	・スターリン批判以降の冷戦の緊張と緩和について、各国の国内の動向および相互の関係に着目して理解している。 ・高度経済成長に至る経緯を、55年体制や冷戦に着目して理解している。 ・第三勢力の形成と脱植民地化の動向について、冷戦との関係を踏まえて理解している。 ・パレスチナ問題と中東戦争が、国際社会にどのような影響を与えたかについて理解している。	・アメリカやソ連が核兵器を保有する理由とその負担について考察し、表現している。 ・日本が高度経済成長を達成することができた要因について、国内外の情勢と関連させて考察し、表現している。 ・独立後のアジア・アフリカ諸国の状況を踏まえ、脱植民地化を進めるうえでの問題点を考察し、表現している。 ・中東で20世紀後半に混乱が続いた要因について考察し、表現している。	・冷戦下における各国の動向が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。

2月	1 揺らぐアメリカと先進各国の変化 2 「経済大国」日本の模索 3 経済発展に取り組むアジア・南米諸国 4 イスラーム復興と冷戦への影響 1 冷戦の終結と変わる世界構造	・ベトナム戦争がアメリカ社会と国際社会に与えた影響を理解している。 ・1970～80年代の日米経済摩擦と、アジア諸国との関係回復について理解している。 ・東アジア・東南アジア・南米の国々がどのような形で経済発展を目指したのかについて、冷戦との関係を踏まえ理解している。 ・イラン=イスラーム革命とソ連のアフガニスタン侵攻について、事実に基づく知識および背景を理解している。 ・冷戦の終結により、グローバル化が進み、世界構造が変化したことを理解している。	・ニクソンショックが国際社会に与えた影響について考察し、表現している。 ・「経済大国」となった日本が抱える国際的な課題と求められる貢献について考察し、表現している。 ・経済発展に成功した国々の共通点について考察し、表現している。 ・なぜイラン=イスラーム革命の成功は、世界の人々に衝撃を与えたのかについて考察し、表現している。 ・冷戦の終結によって、なぜ地域紛争が勃発したり、地域統合が進展したりしたのかについて考察し、表現している。	・冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
3月	2 冷戦の終結が与えた世界への影響 3 超大国アメリカと中東情勢 4 国際環境の変化と日本 5 グローバル化による国際社会の変容	・冷戦終結の過程で、世界各地で民主化の動きが高まったこと、その一方で残る課題について理解している。 ・冷戦以前から続く中東の状況やアメリカの関与、戦乱に伴う難民問題について理解している。 ・冷戦終結後、日本の国際的役割と国内の政治情勢が変化したことや、現在の国際秩序がグローバル化の進展のなかで形成されたものであることを理解している。 ・グローバル化に伴う多極化や反グローバル化運動への対応、多様性の容認などをみずからの問題として理解している。	・第二次世界大戦終結以降、民主化がどのように推移したかについて地域を選択して考察し、表現している。 ・「対テロ戦争」が自衛戦争といえるか考察し、表現している。 ・グローバル化が進むなかでの日本の役割について、求められるものと課題を考察し、表現している。 ・グローバル化のデメリットを一つ選択し、その解決策について考察し、表現している。	

教科担当者より

シラバスには詳細に書いていますが、基本は「授業を聞き、理解して、考え、まとめ、時に話し合う」というごく当たり前のことをやるだけです。大きな歴史の流れやポイントをつかんでおくことは次年度の探究につながるので、真剣に授業に参加してください。